

【表2-7 削りかけ資料：九州】

地域	時期	名称	製作			形状			用途 ほか	表象物	文献	
			材の樹種	伐採時期	製作道具	削り	組合せ	その他				
<b>福岡県</b>												
二丈町	深江	小	うそ	ハゼノキ	—	—	?	—	—	深江神社のうそかえ神事	鳥	1
太宰府市	大宰府	1・7	鶯	ホオノキ	—	—	○	—	—	太宰府天満宮のうそ替え神事	鳥	2
浮羽町	三春	4月上旬	鶯	—	—	—	?	—	—	三春天満宮の鶯替神事	鳥	3
<b>大分県</b>												
武蔵町	吉広(松迫)	小	オイワイ	<タズ>	—	—	○	—	—	これを持って門付、家内に投げ込んで餅を貰う。「栗の餅を祝うちよくれ」と言う場合も。	B	1
国東町	岩戸寺	修正鬼会	コウズイボウ	<カシワ>	—	—	○	2本1組	—	1月7日の修正鬼会で差定の「香水」の際に2人の僧がこれを持って舞う。床を突く所作を伴う ※製作は大工	—	2
<b>長崎県</b>												
※対馬	(町名不明)	大正月	栗へえ箸※	クリ※(一部ハゼ)	—	—	○	家族分	—	正月中に使う箸とする。箸の一端を削りかけてハナを作り、食べるときにはこれを取るのが一般的 ※クリハンギ箸と呼ぶ地域、ハゼを使用する地域も	箸	1
上県町	志多留	塞神祭	ホダレ	<かじ・コウズ>	—	※なし	△	2本1組	火にくべて皮を剥く	<コウズの木>を、1月2日の<セーン神>の火祭りで火にくべ、皮を半分だけ剥く。これを2本セットで各家に配る→供(各家ではダイドコロのホタケサンに供える)→翌正月7日の<ホケンギョウの火>で焚く	—	2・3
美津島町	加志	小	ほだれ	タラ<ダラ>	※1/6に正月様等に供えた木を利用	—	○	2本1組	—	供(2本をカズラで連結し、ホタケ様に供える)	—	2
※壱岐	(町名不明)	大正月	栗へえ箸	クリ	—	—	○	家族分	—	正月中に使う箸とする。箸の一端を削りかけてハナを作り、食べるときにはこれを取るのが一般的	箸	1
		小	ミーレミーレ	タラ<ダラ>	—	—	?	2本1組	紋様	供(戸口や神様に供える)→満潮時或いは15日の朝に「ミーレミーレ」と唱えながら金箱・戸棚・俵等を叩く	—	1
		小	アワボ・ムギホ	タラ・ニフトコ<コマクラ>	—	—	○	—	—	供(荒神様)	—	4
芦辺町	(字不明)	大正月	栗へえ箸	クリ	—	—	○	家族分	—	正月中使う箸とする ※削りの位置(箸の頭の方か口に入る方か)は地域により異なる	箸	5
上五島町	(字不明)	小	コッバラ	<竹>	—	—	△※	—	※	嫁(男児が女性の尻を叩く)→15日の餅入りの白粥を入れて海に流す ※丸竹の先端を細かく裂いたもの、大正中期までは槌型に作って花や馬の絵を描いたものを用いた	—	6
諫早市	有喜町	大正月	ヤブバシ・フナダマサンバシ	クリ	—	小刀	○	1組	—	戸主が正月の雑煮の餅を取り分けるのに使用→1月2日の船祝いで船に膳を供える際に使う →1月7日の鬼火<オネビ>で燃やす	箸	7

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
多良見町	(字不明) 大正月	クリヤ箸	クリ	—	—	○	—	—	正月中使用箸、火箸とする。両端を細かく削る	箸	8
三和町	蚊焼町 小	ヘラマンブー	<イタビ>	—	—	○	2本1組	頭部十字	供(大神宮・荒神・竜宮・川ノ神・地ノ神)	—	4
	川原町 小	ハママンジョー	<イタビ>	—	—	○	—	頭部十字	供?→20日正月の粥を作る際に焚く	—	4
野母崎町	野母 1・13 ※水祭り	花紋状	<イタビ>	—	—	○	2本1組	頭部十字	供(2本を酒・塩・大根ナマスと共に川・井戸に)→嫁(これを持って娘や若嫁を待ち伏せしたくミイサイナー)	—	9
	樺島 小	ヘリマンジュウ・シリマンジュウ	<イタビ>	—	—	○	3本1組	頭部十字	供(3本ずつ神様に)→1月20日く骨正月に燃す/嫁(「祝いましょう」と唱えながら初嫁の尻を叩いて廻る)	—	4

### 熊本県

大矢野町	登立 7・24	ウソ鳥	—	—	—	○	—	—	登立天満宮の鶯替祭/※昭和初期から始まったもの	鳥	1
有明町	楠甫 小	なれなれ木	ネコヤナギ	—	—	○	—	—	供(小さな餅を付けた小笹と共に神仏に)→成木(「なれなれ」と唱えながら屋敷付近の果樹を叩く)	—	2
	須子 小	ナレナレ木	—	—	—	○	—	—	成木(ナレナレ木や鉦で果樹を叩く)/嫁(これを持って初嫁に家を門付け)	—	2・3
	下津浦 小	花まんじゅう・ナレナレギ	ネコヤナギ	—	—	○	—	※	供(神棚)→成木(「なれなれ」と唱えながらみかん、栗などを叩く)※彼岸花のように削る	—	2
倉岳町	宮田 小	春マンジュ	<柳>	—	—	○	—	—	毎年作って祝う<シリ祝>/※姑が嫁を困らせるために焚きつけに生木をあてがったので、嫁は削りかけをつけて燃えるように工夫したのが由来という	—	4
五和町	手野 小	(嫁叩き)	カワヤナギ	—	—	—	—	—	成木(「なれなれ」と唱えながら果樹を叩く)	—	3
	西方 小	花まんじゅう	<柳>	—	—	○	—	—	成木(「ナレナレ」と唱えながら成木を叩く)	—	5
	御領(小串) 七日正月	なれ木	主に<柳>	—	—	○	—	—	成木(1月7日に子供達が「なれなれ」と唱えながらミカン・柿・梨などを叩いた)	—	6
苓北町	坂瀬川 小	花まんじゅう人形※	<柏木>	—	—	※	—	—	嫁(子供がこれを持って門付け、初嫁の尻を叩く)→供(子供が置いていった人形を神棚に供える)/※削り屑を初嫁の家に置いてくる、これを<サカナ>と呼ぶとの記録もあり	※	5・7・8
	釜 小	花まんじゅう	<柳>	—	—	○	—	—	成木(子供が「ポッポヤ…ナレナレ…百ナレ千ナレ」等と唱えながら成木を叩く)	—	5
本渡市	志柿町 小	花ん棒	ネコヤナギ	1・14	—	○	—	—	供(なれん棒と共に神棚に)	—	9
		なれん棒	ネコヤナギ	1・14	—	○	—	—	供(なれん棒と共に神棚に)→成木(「なれなれ」と唱えながら柿や梨を叩く)	—	
	楠浦町 小	花饅頭	<柳>	—	—	?	大小	—	小:供(米麦の俵に1本ずつ挿す)/大:成木(「なれなれ」と唱えながら果樹をたたく)	—	10
	柵宇土町 小	(成木)	カワヤナギ	—	—	○	—	—	成木(「なれなれ」「千なれ万なれ」と唱えながら果樹を叩く)	—	3
	長野 小	花まんじゅう	<柳>	—	—	○	—	—	成木(子供が「ナレナレ…百ナレ千ナレ」等と唱えながら成木を叩く)	—	5
	豆木場 小	花まんじゅう	<柳>	—	—	○	—	—	成木(「ナレナレ」と唱えながら成木を叩く)	—	5
龍ヶ岳町	大道 小	(嫁叩き・成木)	ハゼ	—	—	○	—	—	嫁(子供がこれを持って門付け、嫁の尻を叩く)→成木(果樹を叩く)	—	3
御所浦町	御所浦 小	(嫁叩き)	ハゼ	—	—	○	—	—	嫁(子供がこれを持って門付け、白の尻を叩く)	—	3
天草町	高浜 小	はるまんじゅう	カワヤナギ	—	—	○	2本1組	—	供(神棚・仏壇・ジロ・ユルリに)	—	3・11

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
		小	はるまんじう(大)	ネムノキ	—	—	○	—	—	嫁(子供が大きなのはるまんじうを持って門付け、初嫁の尻を叩く)／※唱えごとを言うだけとの記録も	—	3・11
	大江	小	ハナマンジウ	カワヤナギ	—	—	○	—	—	嫁(これを持って門付け、初嫁の尻を叩く)	—	3・11
	唐崎・白木	小	花まんじゅう	<柏><柳> または<檜>	—	—	○	—	—	嫁(子供がこれを持って門付け、初嫁の尻を叩く)	—	5
	軍浦	小	はるまんじう	—	—	—	○	—	—	嫁	—	11
	向辺田	小	はるまんじう	—	—	—	○	—	—	嫁	—	11
河浦町	富津	小	モウグラ	—	—	—	○	—	—	嫁(これを持って門付け、初嫁の家を叩く<花嫁の尻たたき>)	男根	3
新和町	越池	小	花まんじゅう	<柳>	—	—	○	—	—	成木(成木を叩く)→箆笥・神棚・便所に下げておく	—	5
牛深市	牛深町(鬼塚)	小	花まんじゅう	<柳>	—	—	○	—	—	供(仏壇・三宝荒神)	—	5
	魚貫町	小	ハルマンジウ	カワヤナギ	—	—	○	—	—	嫁(これを持って初嫁を探し「嫁御出せ」と唱える)	—	3
			ハルマンジウの小型のもの							5,6本1束	—	供(ハルマンジウの小型のものを2つに割り、5,6本1束にしたものを梨や柿の木に縛る)
	魚貫町(福津)	小	花まんじゅう	<柳>	—	—	○	—	—	成木(成木を叩く)→よく成るように木に下げておく	—	5
	久玉町	小	花まんじゅう	<柳>	—	—	○	—	—	供(仏壇・墓・辻地藏などに)	花	8
嫁(子供がこれを持って初嫁の家を門付け<花嫁のじご(尻)打ち>)※待ち伏せして打つとも記録あり										—	3・8	
芦北町	(字不明)	小	しりうち	<柳>	—	—	?	—	—	嫁(若夫婦の尻を叩く)	—	12
津奈木町	(字不明)	小	尻打ち	<柳>	—	—	?	—	※	嫁(青年が娘や若嫁の尻を叩く)／※棒の下半分は火であぶる(詳細不明)	男根	13
水俣市	(字不明)	小	(嫁叩き)	ネコヤナギ	—	—	?	※	—	嫁(青年や子供が新婚夫婦の尻を叩いたく嫁ごん尻叩き・嫁ごん尻打ち)／※ネコヤナギを10本ほど束ね、火であぶって柔らかくしたもの	—	14
泉村	(字不明)	小	あわぼひえぼ	<フシノキ>・ハゼ・ネムノキ	—	—	△※	竹に付ける	—	供(棒を竹に成らし、床の間・大黒・かまど・蔵・便所などに供える)※切り掛けや刻みを入れる	作物	15

### 宮崎県

北方町	妙見神社	狩猟祈願	カケグリ(神酒入れ)	ニガタケ	—	—	○	2本1組	—	竹筒型の神酒入れ。狩猟祈願の際、狩倉の祠堂の前に立てる、焼畑の地拵え作業を始める際に神酒を入れる容器として用いる等。いずれも安全祈願や豊饒を願う／※神社の宮司が製作	その他	1
日之影町	鹿川	小	穂垂木(栗木)	ヌルデ<フシノキ>	—	—	?	竹に付ける ※	—	供(棒状のヌルデを竹に成らし、神仏に供える)／※竹は1月7日の火祭りに鬼の目はしらかしで使用したもの	—	2
			ヒロ	ノリウツギ	—	—	○	—	—	供(墓や荒神様など50ヶ所以上に供える)	—	2
南郷町	(字不明)	小	(成木)	<柳>	—	—	?	—	—	成木(子供が「ナレナレ」と唱えながら成木を叩く)	—	3
椎葉村	(字不明)	小	ホダラキ	<キタスノキ>	—	—	△※	竹に付ける	—	飾(果樹に結び下げておく)／※削ったもの、削らないものがある	—	4
	横尾	小	ホダラキ	<キタスノキ>	—	—	△※	竹に付ける	—	供(墓)／※削ったもの、削らないものがある	—	4
	仲滝	小	ホダラキ	<キタスノキ>	—	—	△※	竹に付ける	—	供(畑屋敷の隅に挿す)／※削ったもの、削らないものがある	—	4

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
	松尾(畑)	小	コノミヤ(総称)	ヌルデ <コノミヤノキ・フシノキ>	—	—	○	竹に付ける	—	飾(く作祝い)として餅等と共にデイなどに飾りつける) ※削りかけ状の(作物の花)の他にも里芋・トウキビ・麦穂・稲穂等を作る	花	5
	松尾(鳥の巣)	小	メヤーカゲソウ(総称)	ウツギ	—	—	○	枝に付ける	—	飾(餅等と共にデイに飾る)／※他にカライモ・サトイモ・稲穂・麦穂・アワボ・ヒエボなどのツクリモノを作って飾り付ける	花	6
	大河内(臼杵俣)	小	メージョウ(総称)	<竹>	—	—	○	<柳>に付ける	—	飾(く作祝い)として餅等と共にデイなどに飾りつける)／※作物の花を表わしたもので、柳の枝に挿したもの ※他にも里芋・カライモ・粟穂・稗穂を<柳>の枝に挟む	花	5・6
	向山日添	小	アワボ	ヌルデ <フシノキ>	—	—	○	竹に付ける	—	飾(檜・柳・椿に餅を栗餅等を挿し、栗の穂、削りかけのアワボを添え、コザ(神棚・仏壇の部屋)の米俵に挿す。デイにも飾る)	作物	6・7
新富町	(全城)	小	(成木)	<柳>	—	—	?	—	縞文様※	成木(子供がミカン、梨、柿などを叩く)／※蔓を巻きつけ、燻して文様をつける	—	8
国富町	木脇(馬場)	小	田の神様の箸	<柳>	—	—	○	—	—	供(赤飯に餅を入れたもの<田の神様>を床間に供え、そこに箸を添える)→苗代の水口に立てる	—	9
綾町	(字不明)	小	箸	<柳>	—	—	○	家族分+お供え分	※	供(どんぶりに盛った小豆粥に挿し、床間(田の神)に供える、又家族が小豆粥を食べる箸とする)→初雷の際に燃やす／※両側から削り、中央に花のように削りためる	箸	10
須木村	麓	小	ハラメ棒	<柳>・エノキ	—	—	○	—	—	嫁(子供達がこれを持って初嫁の家を門付け、石垣や庭土を叩いたりする<ハラメウチ>)	—	11
小林市	(字不明)	小	ハラメ棒	<柳>・エノキ	—	—	○	—	—	嫁(子供がこれを持って初嫁の家を門付け、庭や嫁を叩く<ハラメウチ>)／※昭和初期に廃絶	—	12
	西方(孝の子)	小	ナレナレ棒	<柳>・イヌビワ <コタツノ木>	—	—	?	—	縞文様※	成木(子供が家々を回って「ナレナレ」と唱えながらミカンや柿の木を叩く)／※皮を巻きつけ、燻して文様をつける	—	12
		小	箸	<柳>	—	—	○	—	—	小正月のご馳走を食べる箸とする<穂垂れ引き>	箸	12
えびの市	大明司	小	箸	<柳>	—	—	○	—	※	箕に入れて庭に供えたご馳走を、家族が<ホダレヒキ>の箸を用いて食べる／※先端を稲穂が垂れたように削る ※かつてはどこでも行っていた	箸	13
	旧加久藤町	小	ハラメ木	エノキ	—	—	?	—	—	嫁(子供がこれを持って初嫁の家を門付け、畳や嫁の尻を叩く<ハラメ打ち>)／※大正末期に衰退	男根	14
宮崎市	瓜生野	小	ナレナレ	<柳>	—	—	○	—	—	成木(女兒が家々を回って「ナレナレ」と唱えながら柿・桃・ミカンなどを叩く)	—	15
	木花	小	なれなれ	<柳>	—	—	○	—	—	成木(子供が家々を回って「なれなれ…千なれ万なれ」と唱えながら成木を叩く)	—	16
	青島	小	刀	<柳>	—	—	?	—	縞文様※	供(柳の箸と共に神社、お墓に供える)→成木(腰に刀を差し、作ってあった打出の小槌でミカン、柿の木などを叩く)／※皮を巻きつけ、燻して文様をつける	—	17
		小	箸	<柳>	—	—	?	—	—	供(柳の刀と共に神社、お墓に供える)	箸	17
都城市	石原	小	アワンホ コメンホ	<竹>	—	—	○	—	—	供(仏壇・床間・大黒様)／※割竹に削りかけを施し、先端に栗餅・米餅を付ける	作物	18
	中原	小	アワンホ コメンホ	<竹>	—	—	○	—	—	供(仏壇・床間・大黒様)／※割竹に削りかけを施し、先端に栗餅・米餅を付ける	作物	18

【地域】 【時期】 【名称】 【材の樹種】 【伐採時期】 【製作道具】 【削り】 【組合】 【その他特徴】 【用途】 【表象】 【文献】

鹿児島県

大口市	(字不明)	小	テモト(箸)	<柳>	—	—	○	家族分	頭部十字	14日の<ホダレフツ(包丁を入れない野菜を煮込んだ膳)>を食べる箸とする→子供が背伸びして高所に挿し置くと翌朝には葉に取れるといったノ※長さ一尺	箸	1
		小	(田の神の箸)	—	—	—	—	※	頭部十字	飯と共に床間に供え田の神様を祀るノ※頭部の十字の割込に<ゴックメン(御供飯)>を詰めるノ※長さ一尺	箸	1
	戸切	小	コノミヤサアノメ(総称)	—	—	—	○	団子木に付ける	—	供(<コノミヤサアノメ(エノキに小餅をつけたもの)>の枝先にく削りかけ)をつけシモンマ(納戸に当たる部屋)に飾る)	—	1
		小	削りかけの箸	—	—	—	○	—	—	年取りの晩の飯を食べる箸とする	箸	1
	小木原	小	ハラメン棒	<イボタ>・<山モチ>	—	—	○	—	—	嫁<ハラメ打ち>→屋敷周りの成木に掛けておく	—	1
	平出水	小	ハラメン棒	<イボタ>・<山モチ>	—	—	○	—	—	嫁<ハラメ打ち>(姑は蓑笠を着て座に坐った)→屋敷周りの成木に掛けておく	—	1
	篠原	小	ケズリカケ	—	—	—	○	餅に付ける	—	飾(榎の枝にくメノモチ(紅白の小餅))を付け、その餅にケズリカケを挿す)	—	2
	里	小	コノミヤサアノメ(総称)	—	—	—	○	団子木に付ける	—	供(<コノミヤサアノメ(エノキに小餅をつけたもの)>の枝先にくケズリカケ)をつけ、納戸に飾る)→長く飾るものではないと言い、1週間で取り払う	—	3
			田の神の箸	<ヤナギ>	—	小刀	—	—	—	14日の<ホダレヒキ>の膳に添える	箸	3
			ホダレヒキのハシ	<ヤナギ>	—	小刀	○	—	—	14日の<ホダレヒキ>を食べる箸とする	箸	3
	大島	小	削りかけの箸	—	—	—	○	—	—	年取りの膳<ホダレフツ>を食べる箸とする	箸	1
		小	ハラメ棒	ヤマビワ	—	—	○	—	紅で彩色※	嫁(子供達が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら棒を嫁に突き出すノ※先端をベンガラで彩色 ※大正末で廃絶	男根	4
	羽月	小	祝い棒(ハラメ棒)	—	—	—	○	—	—	(詳細不明)	—	4
	大住	小	田ノ神ノ箸	ネコヤナギ	1・13	鎌	○	—	—	14日の<ホダレヒキ>の膳に添える	—	3・4
			ホダレヒキのハシ	ネコヤナギ	1・13	鎌	○	家族分	—	14日の<ホダレヒキ>を食べる箸とする	箸	
	八代	小	ハラメン棒	—	—	—	○	—	紅で彩色※	嫁(子供が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら庭で振った<ハラメ打ち>)→屋敷周りの成木に掛けておくノ※先端を紅で彩色 ※明治末期で廃絶	男根	1
	下木場	小	ハラメン棒・ハラメボウ	ヤマビワが主他にハゼ・<山柿>・<カシワ>	1・13	セン	○	—	—	嫁(新婚・新築・新入の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら縁側の外から家の中に向けて棒を突出す<ハラメ打ち>)→屋敷周りの成木に掛けておく	男根	1・3
		小	ホダレヒキのハシ	<柳>	—	鎌	○	—	—	14日の<ホダレヒキ>に用いる→子供が背伸びして高所に置くと翌朝には取れるといった→→保存しておき、箸から出る油を葉とした	箸	3
	川西	小	ハラメン棒	<イボタ>・<山モチ>	—	—	○	—	—	嫁<ハラメ打ち>→屋敷周りの成木に掛けておく	—	1
尾ノ上	小	ハラメ棒	<クロキダンベ>	—	—	○	—	紅で彩色※	嫁(男児が新嫁の家を門付け、庭先から棒を突き出し、ベンガラを塗りつけるノ※ベンガラで彩色 ※大正初めに廃絶	男根	3	

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
菱刈町	石井	小	ハラメ棒	ヤマビワ	—	—	○	—	—	嫁(子供達が新嫁の家を門付け、内を祝えと言われたら畳や嫁を突き、外を祝えと言われたら家の垣を叩き壊す)／※大正末で廃絶	男根	3
	荻原	小	ハラメン棒	<クロツダンバ>	—	—	○	—	—	嫁<ハラメ打ち>→屋敷周りの成木に掛けておく	—	1
	(字不明)	小	ケズリカケ・ケズリバナ	タラノキなど	—	—	○	—	—	供(井戸の水神・大黒)	—	5
		小	柳の箸	<柳>	—	—	?	—	—	供(膳と一緒に大黒様に供える)、また14日のご馳走を食べる→子供が鴨居などに投げ、上手く乗ると背が伸びるとした	箸	5
	上市山	小	箸	<柳>	—	—	○	—	—	14日のご馳走<ホダレフツ>を食べる／供<ホダレフツ>に添え「田の神様に上げます」といって大黒様の下などに供える	箸	6
	徳辺	小	ハラメ棒	—	—	—	?	—	—	嫁(子供が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら腹を突く<ハラメ>)	男根	5
吉松町	(字不明)	小	ハラメ木・ハラメボウ	エノキ・<柳>	—	—	○	—	—	嫁(子供が新嫁・新築の家を門付け「孕め候孕め候」と唱えながら畳を叩き、嫁の尻を突く<ハラメ打ち>)	男根	2・7
	般若寺	小	箸	<柳>	—	—	○	—	—	14日のご馳走<ホダレフツ>を食べる／供<ホダレフツ>に添え「田の神様に上げます」といって大黒様の下などに供える	箸	6
栗野町	全域	小	(嫁叩き)	ハゼノキなど	—	—	?	—	—	嫁(男児が新嫁の家を門付け、ハラメ歌を聞かせ、座敷を叩いた<ハラメウツ>)／※明治～昭和初期に廃絶	男根	8
	北方(堤郡)	小	箸	<柳>	—	—	○	—	—	14日のご馳走<ホダレフツ>を食べる／供<ホダレフツ>に添え「田の神様に上げます」といって大黒様の下などに供える	箸	6
牧園町	宿窪田・瀬戸口	小	ハラメギ	—	—	—	?	—	—	嫁(男児が新嫁の家を門付け)→門付けされた家の主人が床に飾る	男根	9
国分市	(字不明)	小	ナレナレ棒	<柳>・エノキ	—	—	?	縞文様※	—	成木(子供が門付け「ナレナレ」と唱えながら成木を叩く)／※シュロ等を巻きつけ、燻して文様をつける	—	10
	重久	小	ハラメ棒	—	—	—	○	—	—	嫁(子供が新嫁の家を門付け。大黒柱にハラメ棒を押し付け、ハラメ棒の削り屑を嫁の頭に振りかける<ハラメウツ>)／※また青年たちが新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら柳の箸を投げる風習もあった	—	10
		小	柳の箸1	<柳>	—	—	○	—	—	供(稲穂を模した茅、小豆粥などと共に箕に入れ、大竈の上に供える)→苗代作りの際、田の神様として水口に祀る	箸	10
		小	柳の箸2	<柳>	—	—	?	—	—	14日晚のご馳走を食べる→子供が背伸びして高所に置く。翌朝下ろして箸の残りの皮をはがして食事する	箸	10
	郡田・清水・上井	小	柳の箸1	<柳>	—	—	○	—	—	供(稲穂を模した茅、小豆粥などと共に箕に入れ、大竈の上に供える)→苗代作りの際、田の神様として水口に祀る	箸	10
		小	柳の箸2	<柳>	—	—	?	—	—	14日晚のご馳走を食べる→子供が背伸びして高所に置く。翌朝下ろして箸の残りの皮をはがして食事する	箸	10
	姫城	小	ハラメ棒	—	—	—	○	—	—	嫁(子供が新嫁の家を門付け。大黒柱にハラメ棒を押し付け、ハラメ棒の削り屑を嫁の頭に振りかける<ハラメウツ>)	—	10
	姫城(阿多石)	小	ハラメボウ	—	—	—	○	—	—	嫁(新嫁の家を門付け、大黒柱にハラメボウを押し付け「ヨメジョだっしゅい」ととなえながらハラメボウの削りかけを嫁の頭に振りかける<ハラメ>)	—	11・12

表2-7 削りかけ資料：九州6

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
	下井	小	ヤナギのハシ	<柳>	1・14早朝	—	○	—	—	14・15日のご馳走を食べる／※削りかけを取り除いて用いる	箸	2
			タノカンバンシ	<柳>	1・14早朝	—	○	—	—	供(小豆粥と初穀をつけた茅・モロムギなどを結わえつけ<タノカンサー>)、オカマサアに供える)→苗代作りの際、水口に祀る	箸	2
末吉町	深川	小	米ん穂栗ん穂	<シノメ竹>	—	—	○	餅を付ける ※	—	飾(表間の長押)→1月31日<送い正月>に始末／※割竹に削りかけを施し、先端に米餅・栗餅を付ける	作物	13・14
			アワンホ コメンホ	<唐竹>	14日午前中	—	○	餅を付ける ※	—	供(仏壇2・床間2・大黒様1・内神様2本)→餅が落ちると豊作だといって喜んだ。餅は正月末に下ろして食べるが、タケは保存しておき梅雨時に焚いて雷除けとした／※割竹に3段の削りかけを施し、先端に栗餅・米餅各2個ずつ挿す	作物	14
	広底	小	アワンホ コメンホ	<唐竹>	—	—	○	餅を付ける ※	—	供(仏壇・床間・大黒・内神様)→タケは保存しておき梅雨時の初雷に焚いて雷除けとした／※割竹に削りかけを施し、先端に栗餅・米餅を付ける	作物	14
	口弁木	小	アワンホ コメンホ	<唐竹>	※	—	○	餅を付ける ※	—	供(作の神様にあげると言って床間・炊事場の隅に飾る)→18日に降るすがタケは保存しておき雷が鳴った時に燃して雷除けとした／※割竹に削りかけを施し、先端に米餅・栗餅を付ける ※正月7日の鬼火焚きで用いた竹を利用	作物	14
	上高松	小	アワンホ コメンホ	<唐竹>	—	—	○	餅を付ける ※	—	供(仏壇・床間・大黒様)／※割竹に削りかけを施し、先端に栗餅・米餅を付ける	作物	14
	柿木・樟 橋野	小	アワンホ コメンホ	<竹>	—	—	○	餅を付ける ※	—	供(仏壇・床間・大黒様)／※割竹に削りかけを施し、先端に栗餅・米餅を付ける	作物	14
	野田	小	米ん穂栗ん穂	<竹>	—	小刀	○	餅を付ける ※	—	飾(表間の天井の中央)→1月31日<送い正月>に始末／※割竹に削りかけを施し、米餅・栗餅を付ける	作物	13
松山町	新橋	小	米ん穂栗ん穂	—	—	○	—	—	詳細不明／※くげずりかけ)と説明	—	15	
	秦野	3月頃	だご(総称)	<竹>	—	—	△	団子を 付ける※	—	供(村から米を集めてだごを作り、削った竹の先に挿して昔の村社にお供えする)	作物	15
	尾野見	3月頃	だご(総称)	<竹>	—	—	△	団子を 付ける※	—	供(村から米を集めてだごを作り、削った竹の先に挿して昔の村社にお供えする)	作物	15
有明町	(字不明)	小	削りかけ	<柳>	—	—	○	—	—	供(門口・床・先祖柵・墓などに供える)／※6日に供えた<モロムギ>・タラノキと取り替える)	—	16
	伊崎田 (山ノ口)	小	アワンホ	<竹>	—	—	○	※	—	男児が各戸を門付け、アワンホを授ける→家人は床間・入口上部などに挿す／※割竹に削りかけを施し、二ツ割した竹の先端にニワトコの木棒を挿す	—	2・17
輝北町	市成	小	けずりかけ	<かつがら>	—	—	○	—	—	供(墓や家の前に立てる)→子供の玩具とする<けずりかけ倒し>	—	18
	上平房	小	削りかけ	タラノキ・ <インノコ(柳)>	—	—	○	—	—	供(墓、家のあちこちに立てる)	—	19
	百引	小	ケヅリカケ ケヅリカケ	カワヤナギ	—	—	○	—	—	供(墓・神・仏・木戸)→家のものは18日に下ろして焼く。墓のものは飾っている間に病人が出る と長引くといってすぐ捨てる家も／※6日に供えた<モロムギ>・タラノキと取り替える)	—	19・20
		小	箸・テモト	カワヤナギ	—	—	○	—	—	15日のお粥を食べる箸とする→子供が背伸びして高所に挿し置くと翌朝には取れるといった	箸	
		小	粥箸	カワヤナギ	—	—	?	—	—	15日のお粥を混ぜる→苗代の水口に挿す	箸	20
	堂平	小	箸	<柳>	—	—	○	家族分	—	柵に置いておく※詳細不明	箸	19
大崎町	(字不明)	小	(削りかけ)	<柳>	—	○	—	—	供(門口・氏神・墓)／※ヒガンバナのようにする	—	21	
垂水市	牛根	小	ケヅリカケ	<柳>	—	—	○	—	—	(詳細不明)	—	22
	二川	小	削りかけ	—	—	—	○	—	—	<ヤナギ>・クサギ・<タブ>などで世帯道具<ショテンド>を作り、過去1年に子が生まれた家に贈る。これらの道具にキリで穴をあけて麻糸で貫き、削りかけに下げて床様に供える	—	17

表2-7 削りかけ資料：九州7

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】		
桜島町	白浜	小	ナレナレ棒	<ダブの木>	—	—	○	—	成木(子供が各家を門付け、「ナレナレ」と唱えながら成木を叩く)	—	2・23		
		小	ケズリカケ	—	—	—	○	—	(詳細不明)	—	4		
串良町	下小原	小	ナレナレ棒	<ダブの木>	—	—	○	—	成木(子供が各家を門付け、「ナレナレ」と唱えながら成木を叩く)	—	23		
		小	ケズリカケ	イスビワ	—	鎌	○	セットで飾る	—	供(門・仏前・神前・墓など)／※ハラメボウは猫シュロの葉を巻きつけ、燻して文様をつける	—	24	
東串良町	(字不明)	小	ハラメボウ	カワヤナギ	—	—	×	—	縞文様※	—	—		
		小	削りかけ	エノキ	—	—	○	—	—	供(門口・氏神・床前・墓)	—	25	
鹿屋市	唐仁	小	(嫁叩き)	<樫>	—	—	×	—	—	嫁(子供が初嫁の家を門付け、作ってあった垣根を叩き壊す「ツンツンサシデ」)／※かつては嫁の腰を叩いた	—	25	
		小	ケズイカケ	<柳>	—	—	○	—	—	供(門口・墓・床・仏壇・カマド)／※15日を「オクイ正月」という	—	12	
吾平町	(字不明)	小	けずりかけ	<かつがら>	—	—	○	—	—	供(墓・家の前)→子供の玩具とする「けずりかけ倒し」	—	25	
内之浦町	(字不明)	小	オガタナ・ケズリカケ	<カワタブ>	—	—	○	—	縞文様※	成木(子供が各家を門付け「ナレナレ」と唱えながら成木を叩く「ナレナレ」)／※皮を巻きつけ、燻して文様をつける	刀	26	
		岸良	小	オガタナ(大)	イスビワ <タツノキ>	—	—	—	—	縞文様※	供(床)→成木(男児が門付け、ダイダイの木を叩く)／※「タツノキ」の皮を巻きつけ、燻して文様をつける	—	2・4
			小	オガタナ(小) メガタナ	イスビワ <タツノキ>	—	—	—	セットで飾る	縞文様※	供(床・墓・門口)	—	
佐多町	中郷	小	ケズリカケ	<柳>	—	—	○	—	—	供(床・墓・ウジガミに供える)→20日正月にとる／※「柳」で縞文様の刀も作る	—	27	
		上之園	小	ケズリカケ	—	—	—	○	—	—	(詳細不明)	—	4
			小	ハラシ・カタナ	カワヤナギ	—	—	—	—	※縞文様	供(神仏・先祖棚・墓)／※シュロを巻きつけ、燻して文様をつける	—	28
宮之城町	(字不明)	小	(杖)	ハゼノキ	—	—	○	—	—	嫁(子供が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら庭を叩く「ハラメ」)	—	29	
		小	箸	ネコヤナギ	—	—	○	—	—	14日の「ホダレヒキ」を食べる箸とする→子供が背伸びして高所に挿し置くと翌朝には箸に取れるといった	箸	29	
祁答院町	(字不明)	小	(箸)	ネコヤナギ	—	—	○	—	—	14日の「ホダレヒキ」の夕食を食べる	—	30	
溝辺町	水尻	小	ケズイカケ	<柳>	—	—	○	—	—	供(自分より背の高い人に部屋の棧に挿してもらう)	—	12	
始良町	(字不明)	小	(嫁叩き)	—	—	—	○	紅で彩色※	—	嫁(男児が新嫁の家を門付け「はらめはらめ」と唱えながら棒を突き出すと、嫁が削りかけの先端に紅を塗る「ハラメ」)	男根	31	
		小	触田	ケズリカケ	イスビワ <タブノキ>	—	—	○	紅で彩色※	—	嫁(男児が新嫁の家を門付け、棒を突き出すと嫁がその先端に紅を塗る「ハラメ」)→何本かを床に飾る	男根	22
樋脇町	(字不明)	小	箸	<柳>	—	—	○	—	—	14日「ホダレヒキ」の膳(包丁を入れない野菜を煮たもの)を食べる	箸	32	
		小	倉野	削りかけの棒	—	—	—	○	—	—	嫁(子供達が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱える「ハラメウチ」)	—	33
入来町	(字不明)	小	ケズリカケの箸	猫柳	—	—	○	—	—	14日「ホダレヒキ」の夕食を食べる→子供が背伸びして高所に置くと翌朝には箸に取れるといった→苗代の水口に立てる／※ケズリカケは災厄除けで、関が原合戦に参加した薩摩勢はみなこれを腰につけていたという	—	34	



【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
蒲生町	(字不明)	小	(嫁叩き)	<小タブ>	—	—	?	竹筒に入れる	—	嫁(男児が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら竹筒の棒を出し入れたく孕女打ち)	男根	35
川内市	(字不明)	小	箸	カワヤナギ	—	—	○	—	—	14日晚の膳を食べる→子供が背伸びして高所に挿し置くと翌朝には楽に取れるといった	箸	36
	隈之城町	小	ヤナギ箸	カワヤナギ	—	—	○	—	—	上記とは別に箸を作り、門に立てる	—	36
	久見崎町	小	祝木(ユエギ)	ヤマガキ・ヤマビワ	—	—	○	—	縞文様※	嫁(子供達が新嫁の家を門付け「エーモツ」と唱えながら土間を突く「エーモツ」)／※墨で渦巻き文様を描く ※彼岸花のように削る	—	36
	中郷町	小	(祝木)	—	—	—	?	—	※	嫁(子供達が新嫁の家を門付け、歌を歌いながら雨石を打つ)／※煤で黒く塗る	—	36
	宮里町	1・7	ハラメ棒	—	—	—	?	—	—	田の畔を叩いてまわる	—	36
串木野市	羽島(土川)	小	ケズリカケ	ネコヤナギ	1・7頃	小刀(常用)	○	セットで飾る	—	供(ケズリカケとハラメ棒をセットで、神棚・先祖様の棚・軒端などに挿す)／※ハラメ棒は猫柳の皮を巻きつけ、燻して文様をつける	—	4・37・調05
			ハラメ棒	ネコヤナギ	1・7頃	小刀(常用)	○		縞文様※		—	
			ナレナレ	イヌビワ<タブ>	1・7頃	小刀(常用)	○	—	縞文様※	成木(鳥がまだ起きない早朝、子供達が子供のいない家へ門付け「ナレナレナレ」と唱えながら果樹を叩く)／※ネコヤナギの皮を巻きつけ、燻して文様をつける	—	
			箸	ネコヤナギ	1・7頃	小刀(常用)	○	—	—	14日<ホダレ節句>のご馳走(包丁を使わない料理)を食べる→背伸びして高所に置くと翌朝には楽に取れるといった→保存しておき、箸から出る油を薬とした／※長さ一尺	箸	
東市来町	(字不明)	小	ネコヤナギの箸	ネコヤナギ	—	—	○	—	—	14日<ホダレヒツ>のご馳走を食べる→背伸びして高所に置くと翌朝には楽に取れるといった<タケクラベ>	箸	38
伊集院町	(全城)	小	ケズイカケの箸	ネコヤナギ<インノコジュ>	—	—	○	—	—	14日<モッドシ>のご馳走を食べる→子供が背伸びして高所に置くと翌朝には楽に取れるといった	—	39
	土橋(上土橋)	小	ケズイカケ	ネコヤナギ	(生木を使用)	カマ(常用)	○	—	—	供(仏壇・床の間・納骨堂(墓)・門松の跡)	—	調05
	土橋(下土橋)	小	インノコジュ	ネコヤナギ<インノコジュ>	—	カマ(常用)	○	—	—	供(芽吹いた猫柳と共に、門松の跡・仏さん・墓などに供える)	—	調05
	清藤	小	ケズリカケ	ネコヤナギ	(生木を使用)	小刀(常用)	○	—	—	供(芽吹いた猫柳と共に、仏さま・墓・門松の跡などに供える)	—	調05
	猪鹿倉	小	ケズイカケ	ネコヤナギ<インノコジョ>	—	—	○	—	—	供(門松の跡・仏壇・神棚・大黒・墓など)	—	39
	太田	小	ケズイギ	タラノキ	—	—	○	—	—	供(詳細不明)	—	39
	恋之原	小	ケズイカケ	ネコヤナギ<インノコジョ>	—	—	○	—	—	供(門松の跡・仏壇・神棚・大黒・墓など)	—	39
日吉町	(字不明)	小	ハラメ棒	—	—	—	○	—	—	嫁(子供達が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら庭先を突く孕メ打ち・孕メ祝イ)／※明治末頃に廃絶	—	40
	扇尾	小	削りかけ	—	—	—	○	—	—	供(<柳>の芽と共に墓に供える)	—	41
松元町	(字不明)	小	ケズリカケ	カワヤナギ	—	—	○	—	—	供(門松跡など)／※菊の花のように削る	—	42
	入佐	小	削りかけ	—	—	—	○	—	—	供(<柳>の芽と共に墓に供える)	—	41
吹上町	(字不明)	小	ケズイカケの箸	—	—	—	○	—	—	14日<年の晩>の食事を食べる→子供が背伸びして高所に置き、翌朝背伸びせず取れると「背が高くなった」と喜んだ／※昭和20年代に廃絶	—	43
	坊野	小	削りかけ	—	—	—	○	—	—	供(<柳>の芽と共に墓に供える)	—	41
	上与倉	小	ケズイカケ	ネコヤナギ<ネコンシッポ>	—	—	○	—	—	供(神棚・仏壇・床間・大黒・墓)	—	43

表2-7 削りかけ資料：九州9

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
	平鹿倉	小	ケズイカケ	ネコヤナギ <ネコンシッポ>	—	—	○	—	—	供(神棚・仏壇・床間・大黒・墓)	— 43	
	多宝寺	小	ケズイカケ	ネコヤナギ <ネコンシッポ>	—	—	○	—	—	供(神棚・仏壇・墓)	— 43	
鹿児島市	(字不明)	小	削りかけ・ケズリカケ	イヌビワ <タブン木・タビノキ>	購入※	購入※ カマ・ナタ	○	—	—	供(猫柳<猫ん尻ぼ>と共に門松の跡・墓・神仏などに供える) ／※削りかけ売りが来たり、朝市で売ったりする	— 22・44	
	伊敷町	小	けずりかけ	—	—	—	○	—	—	供(<柳の穂>と共に神仏・墓に供える)／※昔戦立ちした人々が箸を削り終わらないうちに立出たためとのいわれがある	— 45	
	谷山 (旧谷山市)	小	けずりかけ	ネコヤナギ <かつば>・ハゼノキ・アオギリ <いっさつ>	—	—	—	○	—	—	供(戸口・神棚・仏壇・墓)	— 46
		小	はらめんぼー	イヌビワ・エノキ	—	—	—	?	—	—	嫁(男児が新嫁の家に門付け「嫁女をくいやいや、壁をくいやいや」と唱え、嫁を出させるか、作ってあった壁・垣を叩き壊す<ハラメウチ>)	— 12・46
		小	大箸	<柳>	—	—	—	?	—	—	14日夜の<ほだれな(包丁を入れない野菜を煮たもの)>を食べる→高所に置くと翌朝には楽に取れるといった	箸 46
	加世田市	津貫	小	けずりかけ	カワヤナギ・コウゾ	—	—	○	—	—	成木(「なれなれなれよ」と唱えながら自家や近所の果樹を叩く)	— 47
小			けずりかけの箸	カワヤナギ	—	—	○	—	—	—	年越(もっどし)の夕食を食べた→高所に置くと翌朝には楽に取れるといった	箸 47
川辺町	(字不明)	小	削りかけ	—	—	—	○	—	—	供(ネコヤナギの小枝と共に墓・位牌棚などに供える)	— 48	
		小	箸	カワヤナギ	—	—	—	?	—	—	<モッドシ>の食事をする→子供が高所に置くと翌朝には楽に取れるといった／※長さ50cm程	箸 48
		小	ハラメ棒	—	—	—	—	?	—	—	嫁(男児が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら垣<カベ>や板戸を叩き、その後家に招かれる)	— 48
知覧町	(字不明)	小	ケズイカケ	カワヤナギ	—	—	○	—	—	供(猫柳<インノ子>の小枝と共に門松の跡、家の所々に供える)	— 49	
	永里 (中福良)	小	ハラメ棒	トキワガキ <ヤマガキ・ヤマシキ>	—	—	○	—	—	嫁(男児が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら前庭・戸壁を叩く、古くは嫁も叩いたという)／※この他、松や雑木製の大きなハラメ棒を4人で持って川や田の土手を突く行事もあり<ヨッタイ(4人)ハラメ>	男根 50	
	西元 (柚木)	小	ハラメ棒	イヌビワ <カワタツノキ>	—	—	○	—	—	子供達が「ハラメハラメ」と唱えながら村の土手や辻などを突く／※前日晩には子供達がタラノキの枝を持って村の家を門付け、家の壁や柱を打つ行事あり	— 50	
	西元 (永山)	小	ハラメ棒	イヌビワ <カワタツノキ>	—	—	○	—	—	子供達が「ハラメハラメ」と唱えながら村の土手や辻などを突く	— 50	
	塩屋	小	ハラメ	—	—	—	○	—	縞文様※	嫁(子供達が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら庭を突く)／※墨で螺旋文様を描く	男根 49	
	塩屋 (西塩屋)	小	ハラメ棒	<松>・<雑木>	(生木を使用)	鉈	○	—	縞文様※	嫁(子供達が新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱えながら庭や嫁を突く)／※墨でぐるぐる巻き文様を描く	男根 50	
笠沙町	笠石	小	(成木)	<柳>	—	—	○	—	—	成木(子供達が「ナレナレ」と唱えながら庭の木を叩く。翌朝には叩いた木に餅が挿してあるのでそれを食べる<ナレナレ>)	— 51	
	松木場	小	タタッポ (叩き棒)	<柳>	—	—	○	—	—	成木(正月前に作っておいた垣に丸餅を挿しておく、子供達が「ナレナレ」と唱えながら<タタッポ>で餅を叩き落とす<ナレナレ>)	— 51	

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】		
指宿市	姥小	(嫁叩き)	—	—	—	?	—	—	成木(「ナレナレ」と唱えながら庭の木を叩く)	—	51		
		(成木)	—	—	—	?	—	—	嫁(新嫁の家を門付け「ハラメハラメ」と唱える)	—	51		
	(字不明)	小	ケズリカケ	イヌビワ 〈タツノキ〉	—	—	○	—	—	供(ケズリカケ・ハラメツを、〈柳〉の花などと共に先祖棚・仏壇・墓などに供える)／※ハラメツはシュロの葉を巻きつけ、燻して文様をつける	—	52	
			ハラメツ	—	—	—	?	—	縞文様※	—	—	52	
東方	小	ケズリカケ	—	—	—	○	—	—	(詳細不明)	—	4		
		ハラメボウ	イヌビワ 〈タツノキ〉	—	—	—	—	大小あり	縞文様※	大:嫁(男児が道中「ハラメハラメ」と唱えながら新嫁の家を門付け〈ハラメウチ〉) 小:供(床・神棚・墓・門口)／※〈タツノキ〉の皮を巻きつけ、燻して文様をつける	—	2・4	
開聞町	(字不明)	小	ケズイカケ	—	—	—	○	—	—	供(門口・家の庭の柱)	—	53	
			ハラメ棒	—	—	—	—	—	—	嫁(子供達が新嫁の家へ門付け「ハラメハラメ」と唱えながら地面を叩く〈ハラメウツ〉)	—	53	
	脇浦	小	(ハラメ打ちの棒)	マツ	—	—	—	—	—	嫁(新嫁の尻を叩く〈ハラメウチ〉)	—	12	
竹島／三島村	(字不明)	小	削りかけ	〈小タブ〉	1・11	—	○	—	—	供(門・神棚)	—	2	
			ハラン木	〈小タブ〉	1・11	—	?	—	文様	男児が各戸を門付け、家の長持や櫃を叩く〈ハラウツ〉／※木の葉や〈小タブ〉の皮を巻きつけ、燻して文様をつける	—	2	
			(白杵祝い)	タラノキ・ 〈タンノキ〉	—	—	—	○	—	—	ケズリカケに白杵等の道具模型をぶら下げ、それを、初正月を迎える男児の背筋の襟の所に下げる〈白杵祝い〉	—	28
鹿島村	藺牟田	小	削りかけ	アカメガシワ 〈カシワ〉	—	—	○	—	—	供(墓)／※7日〈ナノカノセク〉に供えたヤツデの葉と取り替える	—	28・54	
下甌村	内川内	小	ケズリカケ	タラノキ	—	—	○	—	—	嫁(男児が女兒を突いてまわった)／※調査時で廃絶	—	28	
			長浜	小	ケズリカケ	〈タブノキ〉	—	—	○	—	—	嫁(男児が「ダッシュアイダッシュアイ」と言いながら女兒や若嫁を突いてまわる)	—
	瀬々野浦	小	ケズリカケ	アカメガシワ 〈カシワギ〉	—	—	○	—	—	嫁(子供達が道を通る女兒や若嫁を追いかけて腰を突く〈メッコウダセダセ〉)	—	28	
			青瀬	小	ケズリカケ	ネムノキ 〈コウカノキ〉	—	—	○	—	—	嫁(子供達が村の家々の庭を突いてまわる)	—
	瀬尾	小	(ケズリカケ)	—	—	—	○	—	—	嫁(子供達が初嫁の家を門付け、「花嫁出せだせ」といって地面を突く)／※調査時で廃絶	—	28	
			手打(浜)	小	ケズリカケ	ネムノキ 〈コウカノキ〉	—	—	○	—	—	嫁(子供達が新嫁の家を門付け「嫁女出せ」といって垣を叩く〈嫁女出せ〉)	—
黒島／三島村	片泊	小	ケズリカケ	〈イヌタブノキ〉	—	—	○	—	—	供(床間・墓等)	—	28	
			大里	小	けずりかけ	タラノキ・ 〈タブノキ〉	1・2 〈初山〉※	—	○	—	—	供(氏神・氏神末社・先祖棚・墓・門口)／※初山で採ってきたタラノキは軒先に挿しておく	—
種子島／西之表市	伊関(沖ヶ浜田)	小	ヒダリマキ	イヌビワ 〈タブ〉	14日前の 適当な日	—	×	—	縞文様※	供(「作の祝い」として床間・神棚各2本、倉などの入口に立てかける)→15日が終わったら他の飾り物と共に焼く／〈タブ〉の皮を左巻きに巻きつけ、燻して文様をつける	—	調05	
中種子町	満足山	小	ケズリカケ	〈柳〉	—	—	○	団子木に付ける※	—	供(〈ゴーサシ(〈柳〉やヌルデに小餅をつけたもの)〉に付け柱・床間・門木・家の隅々などに飾る)	—	55	
			納官	小	削りかけ	〈柳〉	—	—	○	—	(詳細不明)	花	56
			小	左巻き	〈柳〉	—	—	—	—	—	(詳細不明)	—	56
南種子町	茎永	1・7?	左巻き	〈柳〉	—	—	×	—	縞文様※	供(タラノキと共に門口に挿す)／※墨で螺旋文様を描く	—	調05	

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
屋久島 上屋久町	小瀬田	小	ケズリ花	—	—	—	○	団子木に付ける※	—	供(くメサシ(く柳)や椎に餅をさしたもの)に付ける)	花	57
	宮之浦	小	ケズリカケ	<タブ>	—	—	○	餅を付ける※	—	飾(※先端に大判小判の形をした餅を挿し、床に飾る)	—	58・ 59
		小	ダセメソ	<タブ>	—	—	—	セットで飾る※	縞文様※	飾(床)→嫁(子供達が「嫁女だせだせ」と唱えながら若い娘を突く(ヨメジョダセ))/※墨や煤で縞文様を描く	—	
	一湊	小	ケズリカケ	<タブ>	—	—	—	○	セットで飾る※	—	供(門松)	—
(縞文様の棒)			—	—	—	—	—	縞文様※	—	—	—	59
屋久町	麦生	小	ケズリカケ	<白タブ・タブ>	—	カマ	○	セットで飾る※	—	供(1対ずつ、神棚・仏壇・墓などお祭りする所全てに飾る)/※<タブ>の皮を巻きつけて燻したり、墨や煤で描いたりして文様をつける	—	57・ 59・ 60
			カタナ	<白タブ・タブ>	—	カマ	×		縞文様※		刀	
		小	ナーエナエ棒	<タブ>	—	—	○	—	—	成木(子供が「ナーエナエ」と唱えながら成木を叩く(ナリモノイジメ・ナーエナエ))	—	59・ 60
	原	小	ナイナイの棒	イヌビワ <メンメンの木>	—	—	○	—	—	供(床様)→成木(子供達が「ないない」と唱えながら成木を叩く(ないない))	刀	60
	尾之間	小	木刀	<タブ>	—	—	○	—	縞文様	成木(子供達が「なあいなあい」と唱えながら成木を叩く(なあいなあい))/※草をまきつけて燻したり、墨で描いたりして文様をつける	—	57・ 61
	小島	小	木刀	<タブ>	—	—	○	—	縞文様	供(床間)→成木(子供が「ナイナイ」と唱えながらミカンを叩く(ナイナイ))	—	57・ 61
	栗生	小	刀・柿なれ棒	<タブ>・ <カシワ>	—	—	○	2本1組 団子木に 付ける※	—	供(くメサシ(く柳)に餅をさして(亭主柱)に括りつけたもの)に掛ける(刀かけ)→後には刀のみを床間に2本飾るように習俗が変化)→成木(子供達が「柿なれなれよ」と唱えながら柿を叩く)→刀の形に削り直し子供の玩具とした	刀	57・ 61
			(削りかけ)	—	—	—	○	2本1組×2 ※	—	供(ワリバシ(頭部に十字の切込を入れたく柳)の棒)2膳、(くノミヤジョウ(餅))と共に膳に載せ、床間に飾る(くノミヤジョウ)→20日に下げる	—	57
	湯泊	小	木刀	<タブ>	—	—	?	—	—	成木(子供達が「ナイナイ」と唱えながら成木を叩く(ナレナレ))	—	61